

## 医学系研究に関する情報の公開について

(2020-71)

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	Cold snare polypectomyにて摘除された大腸癌の臨床経過に関する多施設共同後ろ向きコホート研究
所属科*	消化器内科
研究責任者*	山田拓哉
研究実施期間	終了 西暦 2025年 3月 31日(予定)
対象疾患(予定症例数)	大腸腫瘍(当院で5症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2016年 4月 1日 ~ 至 西暦 2020年 3月 31日
研究概要*	<p>研究の目的：大腸内視鏡によるポリープ切除は現在一般に広く行われている治療です。内視鏡的切除にはいくつか方法があり、通電を伴うポリープ切除術（ポリペクトミー）や粘膜切除術（Endoscopic mucosal resection: EMR）が標準的な方法としてこれまで行われてきましたが、最近では10mm程度までの小ポリープに対しては通電を伴わないポリープ切除手技であるコールドポリペクトミー、特にスネアを用いたCold snare polypectomy (CSP)が行われるようになってきています。CSPは高周波手術装置の準備などが不要で手早く処置を終了することができます。また、腸管筋層への熱損傷のリスクがないこと、また術後出血が少ないことも知られています。しかし一方で、CSPは通電を伴うこれまでの切除法に比して切除深達度が浅く、粘膜筋板まで摘除できないことがしばしばあることが分かってきました。このことは腫瘍の遺残や再発の危険性につながる可能性も考えられ、とくに癌と診断されたポリープについては注意が必要な可能性もあります。実際にCSPはほとんどが前癌病変までと考えられる腺腫性ポリープに対して行われていますが、切除後の病理検査にて癌と診断されることもあります。しかし、そのような場合の実際の経過（経過観察時の再発の有無など）については十分に分かっていないのが現状です。そこでCSPにて摘除された病変のうち、病理学的に癌と診断された病変の治療後の追加切除の必要性や適切な経過観察の方法を明らかにすることを目的として、実際の臨床経過、長期予後を多数例で調査することとしました。</p>

別紙第2号様式

倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	データセンター(大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学)へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。また、本研究における個人識別番号を作成し、当院における個人IDなどの個人情報は削除した状態でデータを提供します。本研究における個人識別番号の対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院消化器内科 山田拓哉 大阪府堺市北区長曾根町 1179-3 TEL072-252-3561

\*記入必須項目